

令和3年度
政策提言書

『津山市の人口維持と地域経済の活性化に関する提言』



津山商工会議所青年部

令和3年度スローガン



『知覚動考』

Chikaku-Doukou

ご挨拶

現在、私達が生活する津山市では人口の減少問題が挙げられています。これは日本全体の問題でもありますが、津山市においてはそのスピードは想像以上に速く、今対策をしていかないといけない状況であります。人口減少の一要因には少子化や若者の県外への流出などがあります。進学や就職のタイミングで津山市を出ていく若者も少なくはないでしょう。津山市には良い仕事がない、女性の活躍の場が少ない、と思っている若者は自然と都市部に目を向けるでしょう。

平成の大合併時に11万人以上いた人口もとうとう10万人を下回ってしまいました。津山市が発表している人口減少予想によると2065年には現在の半分の5万人を下回るようです。人口が減るということは働き手が減るうえ、消費者の人数も減少するので、経済活動にも支障をきたし、需要の低迷による売り上げ減から起こる税収減少、そして土地の価値等も下がり固定資産税等、津山市の多くの税収は減少することと予想されます。一方高齢者の割合は増えていくことが予想されるので社会保障費等の支出は増えると思われれます。しかし残念なことに、福祉サービス等の質は間違いなく落ちていくでしょう。今、津山市の未来を考えると、マイナスなイメージが勝ってしまいます。ただ、我々若者世代が悲観的に嘆いていても何事も良い方向には向かいません。政策提言委員会のメンバーが現在の状況をよく調べ、意見を出し合い、明るい未来への希望をこめた政策提言書を作成いたしました。メンバーの一生懸命な気持ちを受け止めていただき、今後の津山市の発展のための一助としていただければ幸いです。

第31代 会長 **元部 隆富**

津山市の人口維持と地域経済の活性化に関する提言（概要）

基本的な考え方

P3

- 現在の津山市は、数ある課題の中に「人口の減少」と「地域経済の活性化」という問題を抱えている。
- 地域経済の原動力となるのは、市内にある企業の活力であり、それをなくして地域経済の活性化は望めない。
- 津山商工会議所青年部は、青年部の強みでもある「若さ、情熱、広い視野」をもって、これらの問題に挑戦し、持続可能な街づくりに貢献する。
そして、上記の2点は地域を構成している背景においてつながっている。

I.人口減少の緩和につながる提言

P4

現状・課題

- 人口流出の要因の一つに進学・就職によるものがある。津山で生まれ育った若者が潜在的に持っているであろう、故郷への誇りや愛着の醸成を促進する。
- 出生率の向上のためには、非婚化・晩婚化の流れを変え、若い時期に結婚しても女性が活躍できる社会環境を整備する必要がある。

提言 1

これからの津山市を担う若者の回帰・定住、女性にとって仕事・子育てのしやすい街づくり

【提言内容】

- ①学校教育において、津山の歴史、魅力、現状を知る環境を作り、地域への愛着と誇りの醸成を促進する。学生や若者に、地域の企業をより周知し、就職、長期雇用の仕組みを考え、定住化を促進する。
- ②女性が活躍できる環境整備。シングルマザーや若年夫婦において子育てのしやすい多様な保育ニーズに対応したいち早い取り組みを拡充する。

II.『企業から市へ』持続可能なまちづくりへの提言

P7

現状・課題

- 地域経済の活性化とは、市内にある企業の活力が要因の一つである。本当の意味での、まち・ひと・しごと創生法についてよく考え、エコノミックガーデニングなどを推進し、企業誘致に頼らない成長を目指す。
- 現状の公共職業安定所などの施設は中小企業にとって十分ではない。学生や若者に、もっと情報を届ける必要がある。補助や助成の仕組みも、企業にとって敷居の高いものになっている。

提言 2

地方創生の一翼を担う企業発展の推進、地域企業と市が創る持続可能な街づくり

【提言内容】

- ①エコノミックガーデニングの推進による、産/学/公/民/金の連携。企業を育て、地域経済の活性化の促進。
- ②津山市内だけの学生・若者に対する求人モデルの提案。
- ③知識や情報が少ない事業者にとって、補助金や助成金などへのコンシェルジュの設置や、マニュアル整備。外部団体や、金融機関、民間からスペシャリストを要請し、よりスムーズな対応、アフターフォローが重要。

津山市の人口維持と地域経済の活性化に関する提言

はじめに

ちかくどうこう

本年度の政策提言委員会は、会長スローガン知覚動考のもと、津山市の現状をよく知り、考え、行動に移し、検証することをテーマに動き出しました。

年度で初めての月例会に於いては、市政の問題点や、会員の事業所の悩みや、要望などの意見を集約すべく『あったらええな月例会』を開催しました。

若者らしい柔軟な発想と、地域経済の将来を考える、情熱と広い視野をもってディスカッションを行いました。そこで出た意見を委員会で協議し、本年度の政策提言書の大きなテーマとして、「人口減少問題」と「地域経済の活性化」の2つに絞り、取り組んで参りました。

この2つのテーマは、一見しますと異なるテーマのようであります。しかし、人口が減少すれば、経済活動も縮小し、地域経済を衰退させる一要因と言えます。逆に生産年齢人口が減らないことで、働き手が増え、マーケットも拡大し、地域経済の活性化につながる。よってこの2つは一環したテーマであると考えます。

即ち、いかにして人口減少を抑制し、働き手や消費者数を維持しながら、エコミックガーデニングや効果的な補助金、助成金の活用によって地域経済を発展させ、若者や女性にとってより魅力的な働く場所を作っていくことが大切であると考えます。

地域を愛する一市民として、この地で経済活動を行う青年経済人として、豊かで住みよい郷土作りの一助となることを願って、この提言書を作成いたしました。この提言書をご一読いただき、我々のふるさと津山に対する情熱と、明るい展望を一緒に考えて頂けたら幸いです。

最後にこの政策提言書の作成にご協力いただきました皆様には心から御礼申し上げます。

津山商工会議所青年部
令和3年度政策提言委員会
委員長 影山 司

基本的な考え方

現在、津山市では「人口の減少」と「地域経済の活性化」という問題に直面しており、「人口減少対策」と「経済対策」は同一と考えて取り組む施策が必要と考える。

「人口減少」において、地域経済の重要な担い手となる生産年齢人口が減少している。出生率の向上のためには、非婚化・晩婚化の流れを変え、若い時期に結婚しても女性が活躍できる社会環境を整備する必要がある。子育て世代における生活面での負担は大きいものがあり、そこへの支援を拡充し、子育て世代への負担を軽減させていくことが必要である。また、都市部への人口流出が加速している。これらは進学や就職により地域の働き手や消費者などが減少することで、地域経済を衰退させる一因となっていると考える。

このまま少子化と人口流出に歯止めがかからなければ、地域経済の縮小やコミュニティの活力低下など、様々な市民生活への影響が危惧される。若年層の流出防止および津山市への回帰を推進することは重要な課題であり、地元企業の就職支援の強化にも力を入れる必要があると考える。

地域経済の原動力となるのは、市内にある企業の活力であり、それをなくして地域経済の活性化は望めない。地域を発展させたいと考える企業と、地域を支える行政が互いに連携・協力し、若年層のパワーを活かした地方創生が実現するのではないだろうか。

津山商工会議所青年部は、青年部の強みでもある「若さ、情熱、広い視野」をもって、これらの問題に挑戦し、持続可能な街づくりに貢献する所存である。

I.人口減少の緩和につながる提言

提言1. これからの津山市を担う若者の回帰・定住、女性にとって仕事・子育てのしやすい街づくり

【提言内容】

①学校教育において、津山の歴史、魅力、現状を知る環境を作り、地域への愛着と誇りの醸成を促進する。学生や若者に、地域の企業をより周知し、就職、長期雇用の仕組みを考え、定住化を促進する。

現在、津山市の総人口は年少人口と生産年齢人口の若年人口が減少し、老年人口が増加する時期であり、これから若年人口の減少に加え、老年人口の増加が止まり、微減へと向かう時期へ移行することが見込まれている。津山市の人口の推移と推計に関して図表1に示す。

人口流出の要因の一つに都市部への進学・就職がある。地域企業との強いパイプを構築し、地元への就職に繋げていくためには、地域企業と行政の連携・協力が必要である。その中で行政が魅力ある地元企業の情報発信を積極的に行うことで、地域性の高い学校づくりを行うことができ、学生の地元愛を育むことができる。また、地域企業の就職支援の強化を行い、若年層の回帰を進めることで地域経済やコミュニティを強化する必要がある。

また、若者の流出を防ぐためには、学校教育の段階から、学生へ津山市を身近に感じさせる教育が必要である。例えば体験型の学習を行い津山市の歴史・魅力・現状を学ぶ機会を増やし、その学びを学生自身の手で情報発信させることを学習に取り入れることで津山に対する郷土愛の芽生えに繋がるのではないかと考える。また行政と教育機関は連携したイベントの企画することも、郷土愛を育む機会に繋がると考える。

また、津山市は公式アプリを作成し、津山市民及び市外への情報発信を行うことも大切だと考える。現在、若年層の主な情報源はモバイルによるものが大多数を占める。公式アプリを作成することで、若年層への情報提供がスムーズになり、その利便性が拡散することで、津山への愛着を根付かせることも可能であると考えられる。SNSやメッセージアプリに使用できる公式の無料のスタンプ等を作成し無料配布しても良いと考える。生活の身近なところからでも津山を意識させることは、地元に残る意識づくりの積み重ねに繋がる。



【提言】

- 津山市の魅力を若者が発信できる郷土愛教育
- 津山市が置かれている現状を学ぶ機会を設ける
- 津山市の公式アプリを作成し情報発信や魅力の共有を推進する
- SNSやメッセージアプリに使用できる公式の無料のスタンプの作成

I.人口減少の緩和につながる提言

提言1. これからの津山市を担う若者の回帰・定住、女性にとって仕事・子育てのしやすい街づくり

【提言内容】

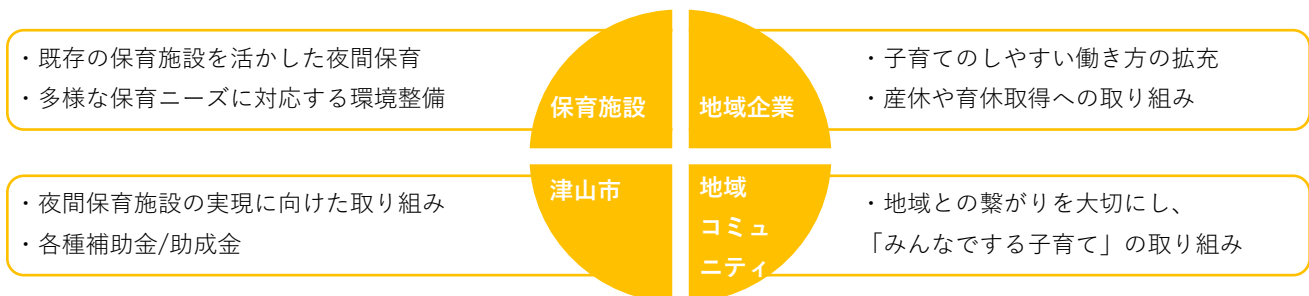
②女性が活躍できる環境整備。シングルマザーや若年夫婦において子育てのしやすい多様な保育ニーズに対応したいち早い取り組みを拡充する。

出生率の向上のためには、非婚化・晩婚化の流れを変え、若い時期に結婚しても女性が活躍できる社会環境を整備する必要がある。また、妊娠から出産、子育てが安心して行える支援の充実も望ましい。子育て世代における生活面での負担は大きいものがあり、そこへの支援を拡充し、子育て世代への負担を軽減させていくことが必要である。近年、離婚率が上がり1人親家庭が増えてきており、その中でも女性が親権を持つ母子家庭の割合が増えてきている。

そのような状況下でシングルマザーや若年夫婦が活躍できる環境整備として、夜間保育や事業所内保育所を推奨している。夜間保育に関しては岡山県内でも岡山市や倉敷市には存在しており、事業所内保育所も近年増加傾向にある。津山市在住に限定した取り組みとして、災害の少ない津山市で多様な保育ニーズに対応し取り組むことにより、定住率も上がると考えている。特に大企業においては事業所内託児所のような充実した保育制度が保持できているが、中小企業においては質の向上と必要な保育ニーズを満たすために、中小企業へのさらなる支援拡充が必要である。

このことから安定して働ける雇用環境の充実のもとより、職場においても育児休暇の取得のしやすさや長時間労働の縮減を促進するなど、企業を含めた社会全体で「働き方」を見つめなおし、少子化に取り組む意識の醸成を図る必要がある。

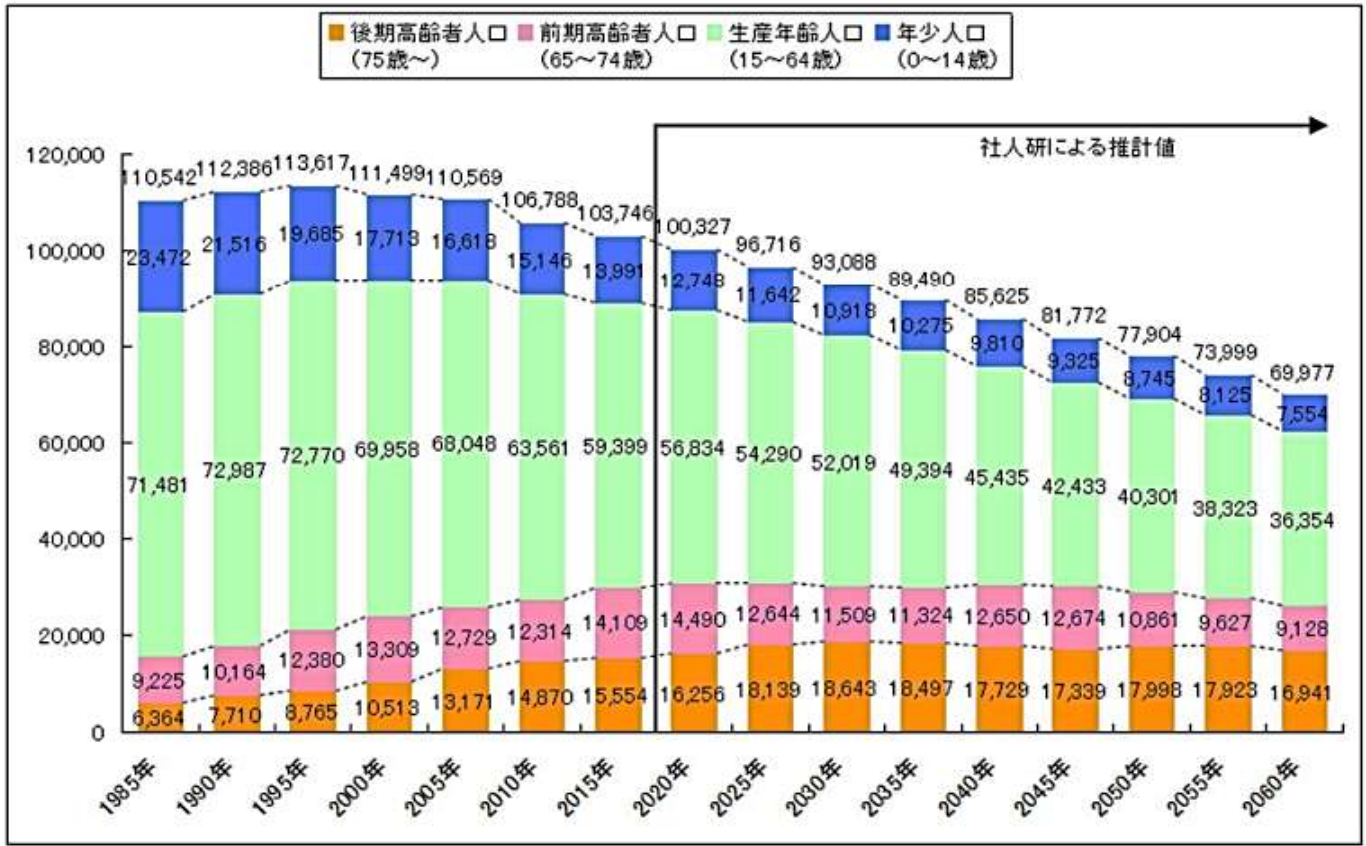
これらを踏まえ、妊娠から出産、子育て施策をさらに充実し、子育ての希望がかなう環境の実現と、津山市の人口構造の若返りと人口減少の克服への足掛かりにしていく必要がある。



【提言】

- ・ 夜間保育等幅広い保育ニーズに対応する取り組み
- ・ シングルマザーや若年夫婦が安心して働ける雇用環境の充実

【図表1】 人口の推移と推計

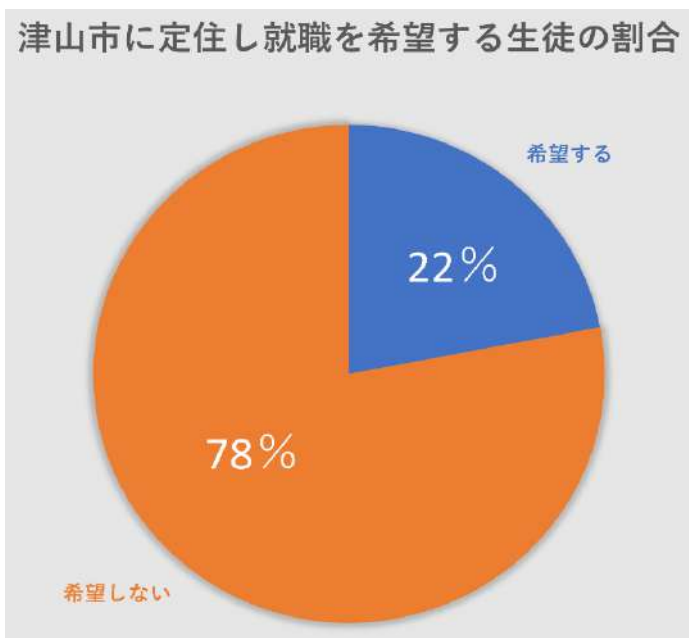


出典：国勢調査【基準日：2017年10月1日】及び社人研【平成30年3月推計】による推計値
総人口には年齢不詳を含む。

【学生アンケート 調査結果】

以下の資料は、市内の高校生3年生100名を対象に実施したアンケートの調査結果である。
津山市に定住し就職を希望する生徒の割合は22%という結果となった。
また、多く見られた意見は以下の通りである。

津山市に定住し就職を希望する生徒の割合



将来津山市に住みたいと思わない理由

- ①あまり発展していない（店舗や娯楽が少なく不便）
- ②なんとなく
- ③都会へ出てみたい

将来、津山市で就職をしたいと思わない理由

- ①仕事の選択肢の幅が狭い
- ②魅力ある企業/仕事がない
- ③希望する仕事がないため

津山市の魅力

- ①津山城（桜）
- ②豊かな自然
- ③食べ物が多い

II. 『企業から市へ』 持続可能なまちづくりへの提言

提言2. 地方創生の一翼を担う企業発展の推進、地域企業と市が創る持続可能な街づくり

【提言内容】

①エコミックガーデニングの推進による、産/学/公/民/金の連携。企業を育て地域経済の活性化の促進。

エコミックガーデニングとは、地域経済を「庭」、地元の中小企業を「植物」に見立て、地域という土壌を生かして地元の中小企業を大切に育てることにより地域経済を活性化させる政策のことである。エコミックガーデニングは、下記の図のように行政や経済団体、経営者、学校、市民団体、金融機関など様々な機関や人が連携・協力することで地域が一体となった取り組みとなり、より効果的に実施できるとされる。

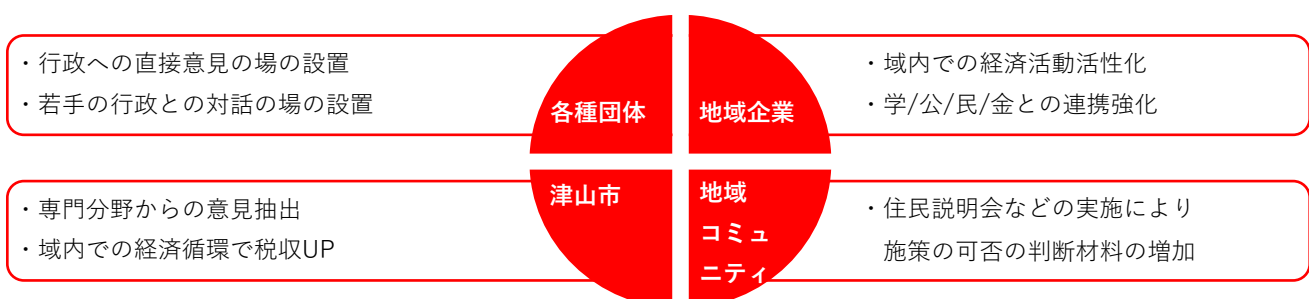
津山市においても、エコミックガーデニングの概念を基にした政策などが行われてきたようであるが、津山市の経済界でエコミックガーデニングが浸透しているとは言い難く、また、下記の図のような連携・協力が成立しているのはごく一部の企業や個人であり、行政が実施する事業や政策には、我々津山YEGのような地元で働き、子育てをしている10代後半から40代までの若手経営者の意見が反映されていないのが現状である。そこでエコミックガーデニングを推進していくための土壌づくりとして、津山市と我々津山YEGのような、若年層の市民や中小企業との連携・協力を図る仕組みづくりについて提案する。

また、津山市が計画した事業や政策に対して、「地元の声」を吸い上げる場を設ける。従来、「地元の声」を吸い上げるといえば、地元住民に対しての説明会などのイメージがあるが、ここでは事業や政策の正式策定前に、産/学/公/民/金による会議を開催することを提案する。

外部委託のマーケティングや、大都市のコンサルティング会社やデザイナー等が依頼されて手掛ける事業や政策には限界がある。なぜなら、その方たちは津山に住んで暮らしたことがないからだ。新しい考えや視点、技術をもって考える事はもちろん大事なことではあるが、その事業や政策を主に利用するのは我々津山市民である。そこで暮らさないと実際にわからないことも多くあると考える。

津山市が税金を使って実施する事業や政策に早い段階から「地元の声」が反映される事で、実施したが地元から支持されない事業や政策が減少し、今後の津山市が実施する事業や政策を進めやすくなる。また、起り得る事が想定できたトラブルや問題解決のための税金の追加投入が避けられ、津山市の財政改善にもつながる。津山市の財政が改善されれば、地元の中小企業支援だけでなく、街づくりや子育て、教育など様々な分野の予算を拡充することができる。それらが魅力的な津山市の形成に繋がり、地域経済を活性化させるエコミックガーデニングにつながっていく。

地元で形成する産/学/公/民/金は津山市の情勢を知るスペシャリスト集団である。そして、津山市の今とこれからの背負っていく「現場の声」＝「地元の声」はここに存在する。

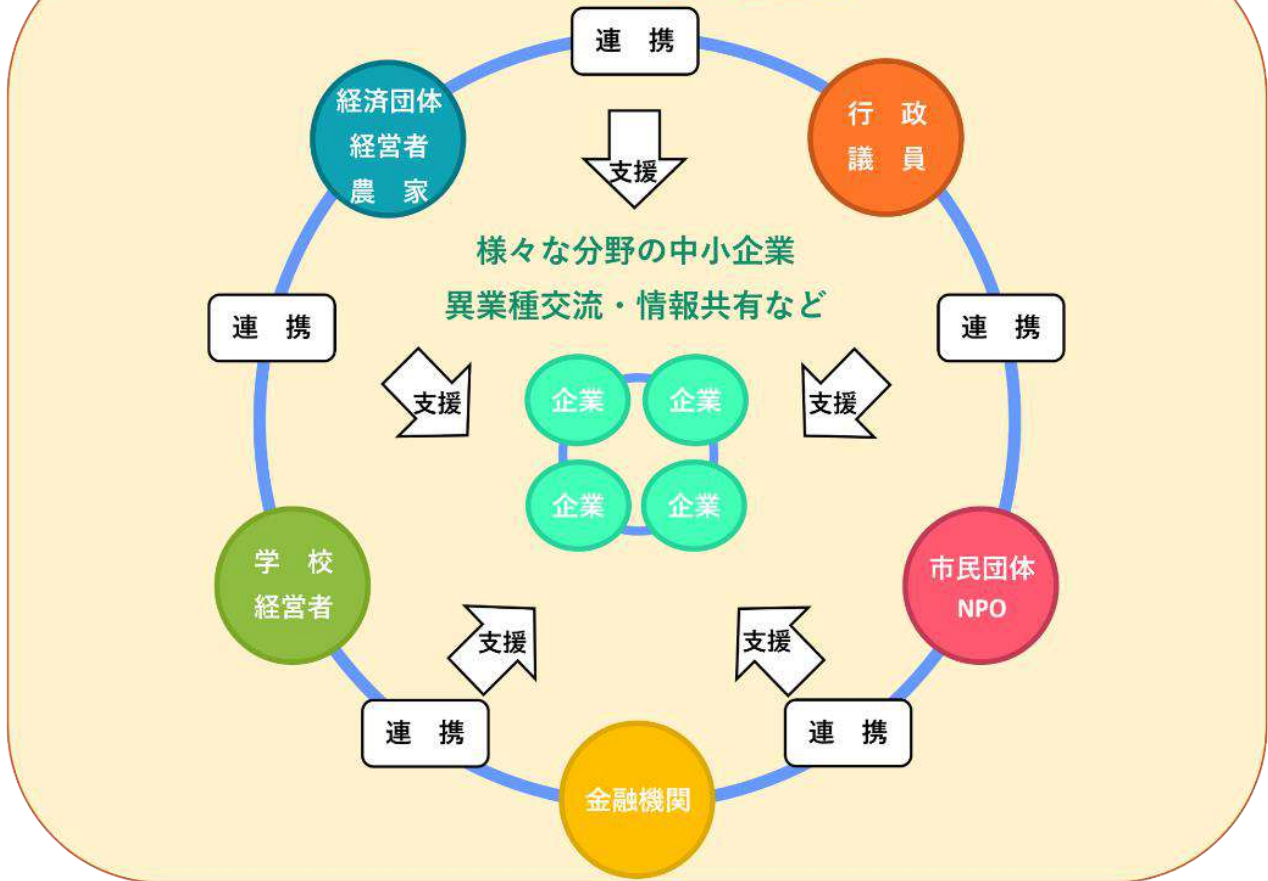


【提言】

- 津山市の事業や政策に「地元の声」を反映させる仕組みづくり

エコノミックガーデニング推進体制イメージ図

中小企業の新しい取り組みを支える **産学公民金** によるネットワーク



引用：エコノミックガーデニング鳴門 <https://www.eg-naruto.jp/>

【産/学/公/民/金による会議の開催イメージ】

津山市によるマーケティング調査及び事業や政策の仮策定

- ⇒産/学/公/民/金による会議で仮策定した事業や政策内容の協議
- ⇒事業や政策内容の変更
- ⇒事業や政策の正式策定
- ⇒地元住民説明会
- ⇒事業や政策の実施

産/学/公/民/金による会議のPOINT

- 津山市は事業や政策の担当者（マーケティング調査及び事業や政策の説明ができる職員）を必ず出席させること。また、担当部署の若手職員を積極的に参加させること。
- 津山市は産/学/公/民/金への依頼時に事業や政策の概要を事前に説明すること。
- 出席者は立場などにとらわれず、気兼ねなく発言できる会議にすること。
- 司会進行は津山市の担当者、書記は津山市の職員が担当し、協議内容をボイスレコーダー等で記録し議事録を作成すること。

II. 『企業から市へ』 持続可能なまちづくりへの提言

提言2. 地方創生の一翼を担う企業発展の推進、地域企業と市が創る持続可能な街づくり

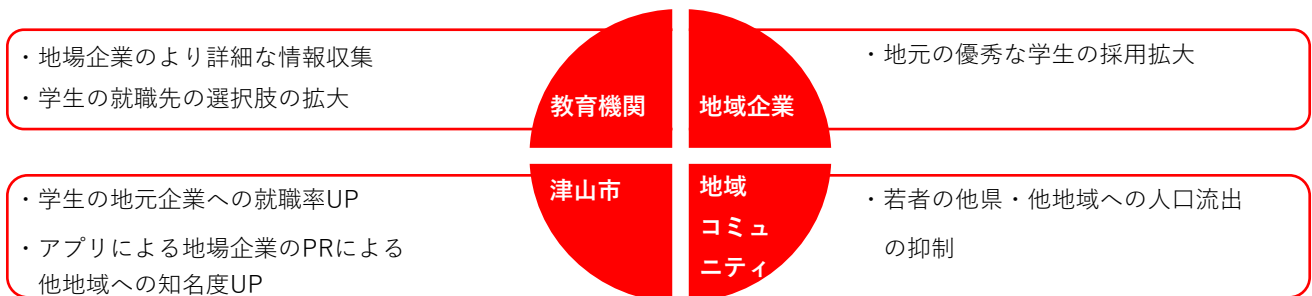
【提言内容】

②津山市内だけの学生・若者に対する求人モデルの提案。

現在、津山市ポータルサイトにて、津山市内にある各企業の外観写真、職種など、企業紹介をしているページが存在している。その中にて、津山YEGメンバーの事業所もみうけられるが大多数は県外の出先や工場などで地場資本のものばかりとは言えない。反面、市内の雇用確保という点では素晴らしいものと感じる。他にも地元で働いている方と学生が対話できる機会も設けられ、実際に働いている方から生の意見を聞くことも出来るようである。市内の高校（主に就職する割合の高い高校）の学校要領をもとに就職先を見ると比較的県内や美作地域の企業への就職も多いことが判明。さらに高校3年生に実施したアンケートがある。アンケート結果にも反映しているように大人たちが思うほど、悲観的な結果ではない。

そこで問題となる点が、県内への就職率は思った以上に高いが、就職先として大半が大企業や中堅企業などの地場資本ではない企業が目立ち、就職活動をしている学生や若者の大半は、大企業や中堅企業に目が向いているという点である。アンケートによると、地元で自分の思う就職先や企業がないと思っている学生も少なくない。またポータルサイトでは、津山YEGメンバーの事業所や個人事業主など中小企業の掲載が少なく、地場資本企業のアピールに繋がっていない。学生や若者の地元へ就職を促進していくための土壌づくりとして、津山市と我々津山YEGのような、地元で働き口を探している方への新しい求人モデルの市民や中小企業との連携・協力を図る仕組みづくりについて提案する。

アンケート結果からもわかるように地元で働ききたいという学生の声も多い。反面、地場企業を知らないという声も多い。そのギャップを埋めるためにアプリを使った地場企業の知名度UPから求人や問い合わせを一貫したシステム構築を行えば、優秀な地元の学生や若者の就職先の候補として地場企業の良さを知る機会が増えると考えられる。



【提言】

- ・ 個人事業主、中小企業など地場資本企業に的を絞った企業紹介アプリや動画の作成。
- ・ 津山市ホームページにリンクを挿入し、ホームページからでもアプリ、動画を見えるようにし、求人や問い合わせなども簡単に行えるシステムの構築。

II. 『企業から市へ』 持続可能なまちづくりへの提言

提言2. 地方創生の一翼を担う企業発展の推進、地域企業と市が創る持続可能な街づくり

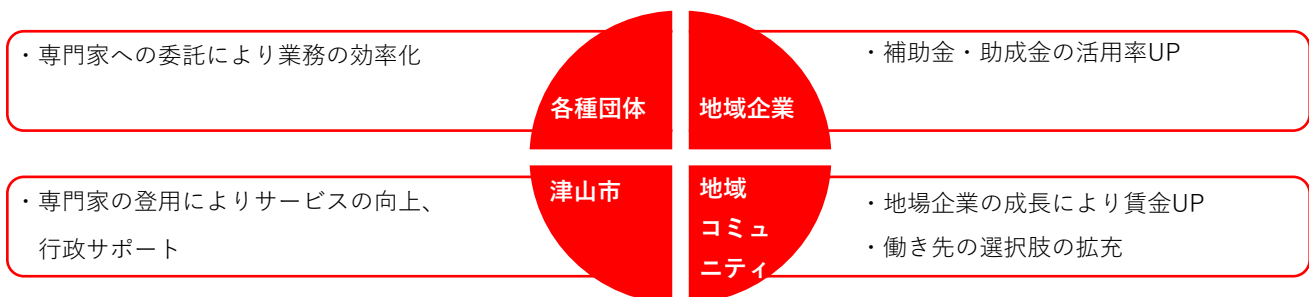
【提言内容】

③知識や情報が少ない事業者にとって、補助金や助成金などへのコンシェルジュの設置や、マニュアル整備。外部団体や、金融機関、民間からスペシャリストを要請し、よりスムーズな対応、アフターフォローが重要。

補助金・助成金には様々な種類があり、申請方法も比較的簡単なものから、複雑なものまでであるが多岐にわたり企業存続や拡大に有効なものが多い。特に個人事業主や中小企業に対し補助金・助成金の活用は事業継続にとって非常に大きな役割を担っている。特にこのコロナ禍において飲食業や観光業をはじめ様々な業種にわたりますますその重要性が増しているといえる。補助金・助成金の仕組み・申請方法も企業によっては敷居が高く、大企業に比べ圧倒的に情報量が少ない企業にとっては十分に活かされているとは言い難い。

問題点として、全ての補助金・助成金が活用できてない企業が多いうえ、そもそも自社企業向けの補助金・助成金の存在すら知る前に申請期限を過ぎる場合も少なくないことが挙がる。さらに補助金・助成金の申請に関しては地元商工会議所・商工会に頼る部分が多く、自己完結できる企業ばかりではない。企業によっては専門の総務部門等がない場合は、社長自らが申請の業務にかかるなど多くの時間がさかれることもある。実際、補助金・助成金が受けられたとしても申請後のアフターフォローにも問題点が多々ある。そのため、専門家を採用し専用窓口を設けてはどうだろうか。専門家は報酬も明確にしたうえで民間から公募で選定し、より高いサービスを提供する。コンシェルジュには補助金・助成金の仕事だけでなく、その道のスペシャリストをして行政の仕事のサポートなども行う。補助金・助成金の仕事だけでは空き時間も当然発生する恐れがある。さらに市役所職員の方と違う目線で行政サービスを行える利点もある。

それを行う上で補助金・助成金の申請から受取その後のアフターフォローまでを一貫して行えるよう、専門家の登用でより質の高いサービスを受けられるような仕組みづくりを行う。現在のコロナ禍で先行きが不透明な企業も少なくない。地場産業を守るためにも早急な対応が求められると感じる。



【提言】

・市役所もしくは市の出先機関に補助金・助成金のコンシェルジュの設置。



おわりに

津山商工会議所青年部の会員数は現在100名を超える会員を有する組織として成長をしてきております。その会員一人一人が自企業の発展のため、地域社会の未来のために日々研鑽を積み、津山YEGにおいても各種事業や研修を行い、その経験を津山の未来に繋がるよう、津山市、また親会である津山商工会議所の御指導と御協力のもと研鑽を重ねております。

そんな中、自企業や地域経済を通じて、津山市がバランス良く発展するための施策を考え、青年経済人として意見を公表するのが政策提言だと考えます。本年度政策提言委員会では、各会合や未来を担う学生に政策提言アンケート等を通じ、そして経済活動を行う津山YEGメンバーの声を収集し、問題や課題を抽出させて頂きました。その中で特に声が多かったのが、働き手不足や地域経済の縮小の問題でありました。

そこで「人口減少の緩和」、「持続可能な街づくり」の2つのテーマに絞り、議論を重ねて参りました。委員会メンバーで様々な調査研究を行い、関係各所や公務員との意見交換等を通じて、論点の絞り込みと精査を行い、2つの提言を纏めました。

今年度の提言は、中小零細企業、津山の未来を担う学生、そして各地域の声を集約したものであり、その問題や課題を解決するための一助となると確信しております。また津山YEGの提言活動は地域の活性化に必ずお役に立てると考えます。問題や課題が解決され、津山市が発展していけるよう、格別のご配慮、ご検討を頂きたく存じます。何卒宜しくお願い申し上げます。

津山商工会議所青年部
令和3年度政策提言委員会
担当副会長 石川 哲也

本提言書作成において協力いただきました皆様

- ・ 津山市役所企画財政部未来ビジョン戦略室
- ・ 津山市役所企画財政部秘書広報室
- ・ 津山市教育委員会
- ・ 津山市産業文化部 仕事・移住支援室
- ・ 津山市産業文化部 つやま産業支援センター
- ・ 岡山県立津山工業高等学校
- ・ 岡山県立津山商業高等学校



令和3年度政策提言委員会

担当副会長	委員長	副委員長	運営幹事
石川 哲也	影山 司	津本 康寛 松下 洋祐	森岡 洋平

理事
津本 直義 長谷川 大

委員					
岩本 英司	氏平 隆太	内田 康雅	嘉地 史貴	清水 浩司	富坂 真樹
中田 貴之	藤本 卓治	牧野 剛人	松本 道明	森永 敏嗣	山田 和也

【本件担当】

令和3年度 津山商工会議所青年部 政策提言委員会

津山商工会議所青年部

〒708-8516 岡山県津山市山下30-9 津山商工会議所内

TEL : 0868-22-3141 FAX : 0868-23-5356

